

中央大学創立125周年記念国際シンポジウム
ソウル ロースクール
シンポジウム 2008
—ロースクール制度の望ましい運営と課題—
2008年6月5日(木)／韓国・ソウル

2008年6月、韓国ソウル市内で国際シンポジウムを開催しました。本学出身の保岡元法務大臣をはじめ、日韓の法曹界から延べ300名の参加者を迎える盛会となりました。(創刊号27ページに掲載)

中央大学創立125周年記念国際シンポジウム
上海国際シンポジウム
—東アジアの時代と大学連携—
2008年11月8日(土)／中国・上海

2008年11月、中国上海で国際シンポジウムを開催しました。上海会場と多摩キャンパスを結ぶテレビ会議で学生の討論会が行われるなど、充実したプログラムとなりました。(創刊号11ページに掲載)



中央大学創立125周年記念・商学部創設100周年記念 公開シンポジウム

国際財務報告基準(IFRSs)の現状と展望
—世界標準の形成に向けて—

2009年3月10日(火)／国連大学ウ・タント国際会議場(東京都渋谷区)

本シンポジウムは、東京青山の国連大学ウ・タント国際会議場で開催され、パネリストには、国際財務報告基準の設定体である国際会計基準審議会(IASB)議長のカウイーディー氏、米国財務会計基準審議会(FASB)理事のリンズマイヤー氏、

企業会計基準委員会(ASBJ)委員長の西川郁生氏、進行役には国際会計基準審議会理事の山田辰己氏をお招きし、会計に携わる者にとって現在もっとも関心のあ

るテーマについて議論がされました。

近時、会計基準の国際的収斂が加速す

る中、国際財務報告基準を採用している国は、すでに100カ国を超え、IASBの公表する国際財務報告基準が、「単一の高品質な世界標準」として認知される日も近いといわれる状況下で、主要な3つの会計基準設定体の責任者を招いての本公開シンポジウム開催の意義は非常に大きく、まさに中央大学創立125周年および商学部創設100周年記念行事に相応しいものとなりました。

中央大学創立125周年記念 理工学部シンポジウム&パネル展

宇宙から見た地球、地球環境の中の水、水と生命

シンポジウム：講演・パネルディスカッション ポスター展示&ポスターセッション

2009年10月10日(土)／文京シビックホール(東京都文京区)

中央大学創立125周年を記念する理工学部シンポジウム&パネル展が10月10日、「宇宙から見た地球、地球環境の中の水、水と生命」をテーマに文京シビックホールで開かれました。

シンポジウムに先立ち、理工学部長の田口東教授が、昨年度新設された生命科学科や、今年度に土木工学科から生まれ変わった都市環境学科を紹介し

ながら、理工学部の歴史を説明。続いて、永井和之総長・学長が「地球規模の環境問題にどのように本学が取り組んでいくのか、いま考える時に来ている」として、今後とも環境問題の解決に向けた研究に積極的に取り組んでいく考えを示しました。

シンポジウムでは、千葉工業大学惑星探査研究センターの松井孝典所長(宇

宙科学)、中央大学研究開発機構の丹保憲仁教授(環境工学)、東京医科歯科大学大学院の佐々木成教授(腎臓内科)の三氏が講演。松井氏は「宇宙から見た生命」、丹保氏(写真右下)は「地球環境と水」、佐々木氏は「水と生命」と題して、専門的な立場から具体的な話を交えて講演しました。

一方、ホール入口前には、9学科それぞれから若手研究者の日々の研究成果をまとめたパネルが展示され、来場者がパネルを眺めながら大学院生らに熱心に質問する姿がみられました。



中央大学創立125周年記念

日中法学交流

政法大学民商法学院とのミニシンポジウム
—法学部の学部教育について— —日本の信託法について—

2009年10月1日(木)／中央大学多摩キャンパス

法学交流第2回シンポジウム

日本法・中国法の今 — 刑罰の厳罰化、地方自治制度、男女共同参画

2009年11月1日(日)～2009年11月3日(火)／中国山東省済南 山東大学

昨年より3年の計画で日中法学交流プログラムが開始されました。このプログラムでは、日中双方の法学研究者が集い、お互いに自国の法を教え合うことを目指しています。また、双方の学

生にも参加してもらい、両国が共同で次世代を担う学生に法知識を伝達することを目指します。

今日、数多くの企業が進出し、日本と中国の連携が強まり、あたかも一つ



の運命共同体を形成しつつあります。中国法の知識をもった日本人法律家が求められており、他面、中国における日本法への関心も依然として強いものがあります。

2008年は、北京の中国政法大学にて「日中法学交流—環境・法人・歴史」というタイトルでシンポジウムを開催し、中央大学から10名の学生が参加しました。今年は山東大学でシンポジウムを開催、20名の学生が参加しました。さらに2010年秋には、中央大学でシンポジウムが開催される予定となっています。



中央大学創立125周年記念・商学部創設100周年記念シンポジウム

商学部教育のこれからを考える

2009年10月17日(土)／中央大学駿河台記念館

中央大学創立125周年・商学部創設100周年記念シンポジウム「商学部教育のこれからを考える」が10月17日、中央大学駿河台記念館で開かれました。

はじめに基調講演に立った石川鉄郎 商学部長は、国際的に通用する質の高い教育を行うことが学部教育の目標としたうえで、「何を身につけたか」を教育方針に、「21世紀型市民」の育成を目指すとしま

した。

また商学部の特徴として、①4学科(経営、会計、商業・貿易、金融)の設置 ②学科ごとの2つのコース(フレックス・コース、フレックス Plus1・コース)の開設を挙げるとともに、学科間の垣根が低く、科目履修の自由度が大きい点を紹介しました。

新たな改革の方向性については、①学

術院方式の導入 ②大学院教育との(タテの)連携を図り、学部教育の充実を目指す ③各専門分野相互間の(ヨコの)連携教育の充実を目指す — ことなどを挙げました。

続いて、酒井正三郎 商学部教授の司会でシンポジウムに移り、商学部を卒業して各界で活躍している山田治彦さん(1979年卒)、佐藤暢晃さん(1980年卒)、伊原康裕さん(1986年卒)、笠井和人さん(1990年卒)、マヘーマーさん(2002年卒)と、現役学生の永山堯之さん(商学部3年)の計6人が討論者となり、「商学部教育について」それぞれの立場から考えを発表。来場者との質疑応答では、予定時間を超えて活発な意見交換が行われました。

シンポジウムのあとは、会場を移して情報交換会が開かれ、参加者らが和やかに懇談しました。



都市環境フォーラム

第1回 21世紀の公務員像 ～中央大学都市環境学科への期待

2009年7月4日(土)／後楽園キャンパス

第2回 都市と自然環境を考える

2009年11月14日(土)／後楽園キャンパス

理工学部の新しい「協働(コラボレーション)づくりを目指す第1回都市環境フォーラムが7月4日、「21世紀の公務員像～中央大学都市環境学科への期待」と題して、後楽園キャンパスで開かれました。

このフォーラムは、2009年4月、土木工学科が都市環境学科に改称されたのを機に、学生と卒業生とのネット

ワーク強化を図ろうと創設されました。この日は多摩市の渡辺幸子市長(1972年法学部卒)が講演し、公務員になった理由について、①男女平等であること②福祉の仕事がしたかったこと一を挙げたうえで、急速に発展する多摩市に魅力を感じたことを紹介。市職員としての体験を踏まえて、「市民目線での政策形成が必要です」と強調しました。

続いて行われたパネルディスカッションには、渡辺市長と公務員として第一線で活躍している加藤和博氏(1973年卒、千葉県庁)、小山豊氏(1977年卒、相模原市役所)、磯田博和氏(1986年卒、川崎市役所)、前川亮太氏(1998年卒、国土交通省)が出席。公務員を目指す学生に対し、「積極的に人の輪の中に入って行くことが大事」(前川氏)、「現場を大事に」(磯田氏)、「心の根底に『土木』を留めていて欲しい」(小山氏)などとメッセージを送りました。

会場には公務員を志す多くの学生が参加、メモをとるなど熱心に聞き入っていました。

2009-2010年度開催

中央大学創立125周年記念特別展

浮世絵百華 平木コレクションのすべて

前期展：これぞ浮世絵！ —平木コレクションの優品・名品・稀品—

2009年11月21日(土)～12月13日(日)／たばこと塩の博物館 特別展示室

後期展：浮世絵とは何であったか —浮世絵文化史学—

2009年12月15日(火)～2010年1月11日(月・祝)／たばこと塩の博物館 特別展示室

講演会：

2009年11月23日, 28日, 12月20日, 2010年1月9日, 10日／たばこと塩の博物館 視聴覚ホール

シンポジウム：浮世絵とは何であったか

2010年2月20日(土)／中央大学駿河台記念館

エントランスホール展示：中央大学の歴史と文化／たばこと塩の博物館 エントランスホール

文学部では、2010年に本学が創立125周年を迎えることを記念し、本学と縁の深い平木浮世絵美術館の協力のもと、平木コレクション所蔵の名品による浮世絵展を、たばこと塩の博物館にて開催しています。

平木コレクションは、重要文化財、重要美術品を数多く含む、世界的に有名な浮世絵コレクションで、今回は日本が世界に誇れる珠玉ともいえる浮世絵の数々や、あまり公開されることのない選りすぐりの優品・名品を揃えて展示、さらに浮世絵とともに、平木コレクションの一角を成す絵本を中心とした版本の優品もあわせて紹介しています。

前期展示「これぞ浮世絵！—平木コレ

クションの優品・名品・稀品—」はすでに終了しましたが、引き続き12月15日から、「浮世絵とは何であったか—浮世絵文化史学—」というテーマ構成で、後期展示を開催しています。

浮世絵という文化遺産を、同時代的な視点、また文化史学・社会史的な視点から捉えなおし、その文化史的意義を再評価する今回の特別展、さまざまな時代・絵師・ジャンルの優品を豊富に所蔵する平木コレクションだからこそ実現できる贅沢なテーマ展示を、お楽しみください。多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

※たばこと塩の博物館
東京都渋谷区神南／03-3476-2041



中央大学創立125周年記念

国際交流行事について

2010年度開催予定



中央大学の創立125周年を機とした国際化推進の一環として、次のような各種国際交流行事を計画しています。

- ①創立年(1885年)が同じ韓国延世大学との125周年記念合同企画
→2010年春に、ソウルにおけるロースクールシンポジウム、剣道部交流試合などが予定されています。
- ②ベトナム・ハノイ国際シンポジウム

(2010年夏開催予定)

- ③本学出身で海外で活躍している留学生による学内シンポジウム(2010年6月開催予定)
- ④海外協定大学長等による特別講演会(2010年11月 記念式典前日ほか)
詳細については、本誌11ページ掲載の「創立125周年記念公式サイト」にて随時お知らせします。

中央大学創立125周年記念展示

「学びのたから 中央大学の起源・絆・記憶」(仮題)

第1部：中央大学の起源 第2部：赤い襷の絆 第3部：キャンパスの記憶

2010年11月12日(金)～20日(土)予定/多摩キャンパス

初代校長増島六一郎をはじめとする18人の若き創立者たちの熱き意志、「花の弁論」と謳われた弁護士花井卓蔵や明治・大正・昭和三代を生きの大ジャーナリスト長谷川如是閑等の学員の社会的な活躍、箱根駅伝等のスポーツで培われた学生たちの力強い絆。そして今はない駿河台校舎、1960年代の後楽園キャンパス、1978年移転当初の多摩キャンパスの懐かしい風景等々。

英吉利法律学校創立以来の歴史を語る資料や人物は、本学にとってかけがえのない「たからもの」、まさに「学宝」といえるでしょう。本展示会は、本学の125年

にわたる歴史とその中で培われた伝統を「起源」「絆」「記憶」というテーマのもとにとらえ直し、さまざまな「学宝」とのふれあいの場をつうじて、皆様に心からおもてなししようというものです。



大正期運動会仮装

中央大学創立125周年記念 FLP企画

中大リレーマラソン

ALL CHUO MIND の醸成

2010年11月6日(土)予定/多摩キャンパス11号館前→ラグビー場折り返しコース

本企画は、スポーツ・健康科学プログラムの河田ゼミが立案し、年齢や性別に関わらず誰もが自分のペースで始められるリレーマラソンに、学生だけでなく、教職員、学员、ご父母、附属高校生など、本学に関係する人びとが参加することで一体となり、本学全体の愛校心と連帯感を表す"ALL CHUO MIND"を醸成することを目的としています。

エントリーは先着順125チームまでで、申込方法等詳細は追ってお知らせいたします。

附属高校記念行事

CHUO125

附属3校(中央大学高等学校・中央大学杉並高等学校・中央大学附属高等学校)は、中央大学創立125周年記念行事として、英語でのスピーチコンテスト、クラブ活動交流会、記念講演会を企画しています。記念講演会については、各校で縁の深い卒業生や著名な方をお招きすることで企画を進めています。これは、各校の交流・親睦を深めることになり、ひいては中央大学の一員としての帰属意識を高めることにつながると考えています。

附属3高等学校

スピーチコンテスト

2010年1月16日(土)/中央大学附属高校

スピーチコンテストは、2007年から附属3校間で開催されてきましたが、今回は、規模を拡大して実施する予定です。

大会は、附属高等学校の視聴覚ホールを会場として開催、各校予選を勝ち抜いてきた計15名の生徒によって競い合われ、最優秀者には中央大学総長賞が授与されます。また、審査の合間には、2007・2008年の総長賞授与者のゲスト参加もあり、審査結果の発表・表彰後には、懇親会を予定しています。

附属3高等学校

クラブ活動交流会

2010年6月19日(土)/中央大学附属高校

クラブ活動交流会(スポーツ大会)は、小金井の附属中学校・高等学校の各運動施設を使用して、3校の硬式野球、軟式野球、サッカー、男女バスケットボール、男女バレーボール、男女バドミントン、男女テニス、ソフトテニス、剣道、柔道、卓球部の交流試合と茶道、華道、写真、吹奏楽部等文化部の発表、展示などを行いません。

中央大学創立125周年記念出版

『タイムトラベル 中大125』（仮題）

2010年10月刊行予定

「中央大学の歴史について書かれた本はありますか？」

学員の皆様から幾度となくこの質問が寄せられています。大学史編纂課では、2007年に完結した『中央大学百年史』（全4巻）編纂の成果をもとに、18人の創立者をはじめ本学を代表する著

名な学員や学校運営に尽力した教職員、また学生生活の今昔、大学にまつわるエピソードなどをコンパクトにまとめてご紹介し、世代を超えて気軽に本学125年の歴史に親しんでいただける読み物をお届けいたします。



第20回ホームカミングデー大学史企画展「光と記憶のジオラマ」でタイムトラベルを実感

総合政策学部

英文学術書出版企画

2010年10月刊行予定

本企画の目的は、2008年度に学部創立15周年を記念し出版した『新たな「政策と文化の融合」：総合政策の挑戦』を下敷きに、専任教員執筆による英文学術図書を公刊し、国際化に即して、海外の日本研究や日本留学に関心のあ

る研究者・学生などに本学部の研究教育の魅力を広く知らしめることです。125周年記念式典参列の海外協定大学長などに記念品として、また他の協定大学や日本研究の拠点大学などに寄贈品として頒布します。

中央大学図書館
創立125周年記念事業

1) 法学百科事典コレクション『Repertorium aureum』購入

2) 国際シンポジウム — 16～19世紀ヨーロッパにおける法知識の形成とその伝達 —

2010年10月16日(土)／多摩キャンパス(予定)

英吉利法律学校の設立趣意書に、学校設立の目的の一つとして、法律書庫の設置が掲げられています。爾来図書館では、英米法関係資料はもとより、ローマ法文献をはじめとして、多くの貴重な法律文献の収集をしてきました。

今回、図書館の記念事業として、1) 貴重コレクションの購入、2) コレクションを中心とした国際シンポジウムの開催一を実施することになりました。

コレクションとしては、本学の創立125周年記念事業にふさわしい資料として、ヨーロッパにおける16世紀初頭から19世紀にわたる法学百科事典コレクション(Repertorium aureum) 全98点を購入します。このコレクションはグーテンベルクの活版印刷術の発明から50年ほどしか経っていない図書を含む、世界的にも大変貴重なコレクションです。

国際シンポジウムは2010(平成22)年10月16日に、上記コレクションを題材として、ヨーロッパの法形成過程を中心に、国内外の研究者によるシンポジウムを開催します。専門家ばかりでなく、学員を含めた一般の方々にも興味のある内容となるよう検討しています。



法学百科事典コレクションより

経済学部

湧水を中心とした
多摩キャンパスの生態系保全と
ビオトープの確立

2010年度／多摩キャンパス

生物多様性の維持は、将来に向かう私たち人類にとって共通の課題であり、水資源はその根幹を成すものです。経済学部では、多摩丘陵の特色である湧水に着目し、キャンパス内の湧水を保全することで生態系を復元し、自然度を高めることを手がけます。記念行事として、キャンパス内を散策する“ミニ・エコツアー”と“生物多様性”をテーマとする講演会を企画しています。多くの学員の方々の参加をお待ちしています。

中央大学創立125周年記念サイトがオープン

2009年12月予定

2010年に創立125周年を迎える本学のニュースやイベント情報が満載の「中央大学創立125周年記念サイト」が、この度オープンしました。10月のプレサイトオープンでは、125周年の歴史と伝統をベースに、中央大学の過去・現在・未来をビジュアルで語るイメージビデオ、理事長と総長・学長から学員の皆さまへ向けたメッセージビデオ、ホームカミングデーレポートなどを盛り込んでいますが、12月からは、いよいよ創立125周年記念の具体的なニュースやイベント情報の発信がはじまります。今後も情報満載の本サイトにぞ期待ください。



中央大学創立125周年記念サイト…… chuo125.jp

企業再建に辣腕発揮のプロ —— 高木 新二郎さん

「JAL再生タスクフォース」のリーダーとして尽力

深刻な業績不振に陥った日本航空の経営再建のために前原誠司国土交通大臣直轄の顧問団として設置された「JAL再生タスクフォース」のリーダーに本学の卒業生である高木新二郎さんが就任、「時の人」として脚光を浴びました。

この「タスクフォース」は、事業再生のプロフェッショナルによって構成された専門家集団(5人)であり、日本航空の自主的な再建を確実に実現することを目的として、再建策の策定にあたりました。事業再生のプロ中のプロ、高木さんのリーダーとしての手腕に注目が集まったところ(タスクフォースは1カ月の集中作業で再建策をまとめあげ大臣に提出、方針がJALの自力再生から企業再生支援機構を使った政府管理下での再生に切り替わったことで、10月末次のステージに移行しました)。

高木さんは1963年から25年間にわたり、弁護士として倒産事件を数多く手がけたあと、1988年、「司法改革のためには、法の職人ではなく、いろ

ろな知識を持ち、経験を積んだ法律家が裁判官の中にいることが望ましい」と自ら志願して弁護士任官第1号の裁判官に。東京高地裁判事、山形地家裁所長、新潟地裁所長などを歴任し、東京高裁部統括判事を最後に2000年、退官しました。同年、再び弁護士として登録した後は、世界最大負債規模の協栄生命保険の更生管財人に就任したほか、私的整理ガイドラインや事業再生ADRをつくり、公正なワークアウトにより多数の大企業を再建し、この分野の第一人者として2003年から2007年まで産業再生機構産業再生委員長をつとめました。

企業の再建計画をまとめ上げるためには金融、法律、会計などの幅広い知識と豊富な経験が必要とされます。さらには秀でた交渉手腕が不可欠ですが、高木さんは自ら自家用車を運転して債権者の銀行との調整役として奔走したなどの人間味にあふれたエピソードも語り草になっています。

2002年に66歳で法学博士の学位を取得。元中央大学法科大学院特任教授(2004-2006年)。2007年から野村證券顧問。まさに「実学の中大人」、かくしゃくたる活躍ぶりです。



PROFILE

高木 新二郎 (たかぎ しんじろう)

千葉県出身。1960年中央大学法学部卒業。1963年から、弁護士として多くの会社再生事件に取り組む。1988年弁護士任官第1号として裁判官に任官。東京高地裁判事、山形地家裁所長、新潟地裁所長を歴任し、東京高裁部統括判事を最後に2000年退官、弁護士再登録。元産業再生機構産業再生委員長(2003～2007)。元中央大学法科大学院特任教授(2004～2006)。2007年野村證券顧問に就任一現在に至る。倒産法の第一人者としても知られ、『事業再生』(岩波新書)、『企業再生の基礎知識』(岩波アクティブ新書)、『新倒産法制の課題と将来』『随想・弁護士任官裁判官』『アメリカ連邦倒産法』『会社整理』など著書多数。